

「文楽鑑賞教室と国会議事堂（参議院）見学ツアー研修」

2017年12月15日（金）実施 JGA 第一支部研修終了レポート

12月15日（金）13:00～16:00、国立劇場小劇場及び国会議事堂参議院内にて JGA 主催による第一支部「文楽鑑賞教室と国会議事堂（参議院）見学ツアー研修」が開催されました。参加人数は48名（JGA 正会員46名、運営委員2名）で、京都府、愛知県、山梨県からもご参加頂きました。

文楽鑑賞は11:00～13:15で演目は「日高川入相花王（ひだかがわいりあいざくら）」（僧侶と2人の女性との三角関係）と「傾城恋飛脚（けいせいこいびきやく）」（遊女と恋に落ちた飛脚が公金横領の罪に問われて追っ手に追われながら故郷で実父と今生の別れをする）が上演され、第一幕と二幕の間に文楽についての説明がございました。

その中で台詞を言う太夫（たゆう）は1人で登場人物全ての声を使い分け、特に女性と男性の声の使い分けは見事でした。また、三味線の音色も喜怒哀楽によりすべて異なり、太夫の台詞と三味線、人形の動きの息が合っではじめて感動が生まれることや、人形も三人で操られており、台詞、三味線に合わせて色々な表情を表すのは至難の業であることが良く理解できます。そうした日本人の器用さは文楽、歌舞伎、能、狂言といった伝統芸能以外にも蒔絵や螺鈿、寄木造等の工芸品や建築等にも生かされており、改めて日本人の素晴らしさを感じ取ることの出来る機会でした。

上演中は台詞が現代語とは異なっている為、舞台の上部に字幕スーパーが流れ、内容も理解しやすくなっており、初心者でも充分楽しめるようになっていました。直接ガイドする機会は少ないかも知れませんが、通訳案内士として日本文化を理解するには貴重な経験だと思われまます。

文楽の鑑賞終了後、国会議事堂の参議院参観はセキュリティの関係上2班に分かれて実施されました。第一班は14:00～15:00、第二班は15:00～16:00でした。いずれの班もガイドの方の引率で長い階段を上って3階まで行き、外交官用傍聴席より議場内部の説明があり、天皇陛下がご覧になる際の玉座やその他の皇族の方用の御席を直接見ることが出来、現在の参議院の議席数は242議席であるにもかかわらず、実際には460席あり、それは1936年の建設当時、参議院の前身である貴族院があった為だとのことでした。その後、天皇とその他の皇族の御休所（ごきゅうしょ）や議会政治の設立に貢献した、板垣退助、大隈重信、伊藤博文の銅像のある中央広間を上から見学し、最後に正面に出て写真撮影をしました。

いずれも今までとは違った目で体験できたとの意見の多かった研修でした。

